

神は死んだ!? それからどうする?

—ジェームズ・ジョイス『若い藝術家の肖像』と D・H・ロレンス『息子と恋人』の時代—

講師 慶應義塾大学名誉教授 武藤 浩史

「神を殺した」のはニーチェだったりダーウィンだったりすると
言われるが、事はもう少し複雑である。それでも、生まれ落ちた
共同体で教えられた人生の教えがもう通用しないことに気づいた
若者はいつの時代も悩み苦しむもので、その深い苦悩が傑作小説
の創造に繋がることも時にあって、ジョイスとロレンスの標記小
説はその好例となる。これらを読み比べながら、「神は死んで」
おらず、形を変えたのだということと一緒に見てゆきたい。

(講師・記)



<カリキュラム(予定)>

第1回: ジョイス対ロレンス: 違っているとされるが、実は似ている

同時代のヴァージニア・ウルフや少し後輩のジョージ・オーウェルなどとも比較して

第2回: ジョイス『ステイヴン・ヒーロー』から『若い藝術家の肖像』前半: 家庭から、時代へ、個人へ

第3回: ロレンス『息子と恋人』前半: 時代から、家庭へ、個人へ

第4回: ジョイス『若い藝術家の肖像』後半: 物から人生へ

第5回: ロレンス『息子と恋人』後半: 物から人生へ

第6回: ジョイス対ロレンス2: まとめ

<テキスト> ※各自ご用意ください。 ジェームズ・ジョイス『若い藝術家の肖像』丸谷オー訳(集英社文庫)

D. H. ロレンス『息子と恋人』小野寺健・武藤浩史訳(ちくま文庫)

<講師紹介>むとう ひろし 1958 年生まれ。英国ウォリック大学博士課程修了(Ph.D.)、慶應義塾大学名誉教授。
専門は、英文学・文化。著書:『「ドラキュラ」からブンガク』(慶應義塾大学出版会)、『「チャタレー夫人の恋人」と身体
知』(筑摩書房)、『ビートルズは音楽を超える』(平凡社新書)。翻訳: D・H・ロレンス『息子と恋人』小野寺健と共訳(ち
くま文庫)、『D・H・ロレンス幻視譚集』(平凡社ライブラリー)、マーガレット・ドラブル『昏い水』(新潮社)、サミュエル・
バトラー『エレホン』(新潮社)ほか多数。

日 時 2024 年 10/8、11/12、12/10 2025 年 1/14、2/4、3/11 全 6 回

火曜日 13:00~14:30

受講料 会員 19,800 円(入会金は 5,500 円。70 歳以上は入会無料、証明書が必要です)

設備費 990 円

※入会金・受講料・教材費等は消費税 10%を含む金額です。

場 所 ルミネ横浜8階(横浜駅東口)

◎オンライン注意事項は、ホームページの「講座詳細」をご覧ください。

※ご入会の優待制度をご利用の方はお申し出ください。

※日程が変更されることがありますので、ご了承ください。

※講師の病気や、受講者が一定数に達しない場合などには、講座を中止することがあります。